

# WEEKLY REPORT

2019-2020年度 国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー

2019-2020年度  
国際ロータリーのテーマ **ロータリーは世界をつなぐ**



会 長 牧野 博和  
幹 事 荒川 和生  
プログラム・会報 水越 省三

承認 1990年5月1日  
例会日 月曜日・18:00  
例会場 名古屋クレストンホテル  
事務局 中区栄3-31-25  
サンテアビタシオン503号室

Tel : (052) 242-6848  
Fax : (052) 242-6208  
Mobile phone : (080) 5160-5517  
E-mail : info@nagoya-sakae-rc.org  
URL : http://nagoya-sakae-rc.org/

## 第1265回例会

2019年8月19日(月) 雨 P.M.6:00 No.6

会員出席 109(102)名中72名 出席率70.59%  
前々回修正出席率81.48%

ゲスト 二十五代藤原兼房様(スピーカーご子息)  
(例会見学として)黄瀬 準也様

- ◆ロータリーソング「我等の生業」
- ◆会長挨拶(会長 牧野 博和君)



皆さんこんばんは。今年のお盆は大型連休の企業が多かったと思いますが、皆さんいかがお過ごしだったでしょうか?このお盆で74回目の終戦記念日を迎えました。本日は戦時中のロータリーについてお話させていただきます。

戦時中ロータリーは、発祥地がアメリカだった事から「ロータリーはアメリカのスパイじゃないか」とか「フリーメイソンの組織か」等の嫌疑をかけられた時期が長かったようです。そんな疑いを晴らす為だと思いますが、国に対し忠誠を誓う証の一つとして例会毎に国旗を掲揚し、国歌を斉唱する習慣が出来たと聞いています。我等の生業という歌の中の「御国に捧げん、我等の生業」は、そんな中から生まれたのかなと思います。当時は例会毎に特高(特別高等警察)がサーベルをガチャガチャさせながら例会を監視していたそうです。ちなみにアメリカを除く世界のRCでは、国旗・国歌の習慣はほとんどないようで、アメリカは元々移民の国ですので、アメリカ人だという意識を強く持たせるために行っているようです。そうでありながら軍部や右翼からの圧力、迫害があり、1940年に日本のRCは国際ロータリーから脱退します。37RC中、19RCが東京水曜クラブ等の名称に変えて例会を続けたそうです。戦後の1949年3月、東京RCがRIに復帰し、各RCがそれに続いたという事です。ちなみに当時マッカーサーは東京RCの名誉会員だったそうです。本日は以上です。

- ◆幹事報告(幹事 荒川 和生君)

①本日3点お配りしましたのでご確認ください。(1)9月スケジュール (2)8/5ミニ親睦例会報告書 (3)栄

RC Tシャツ販売のご案内...9/6締切

②木村忠晴さんが第2回米山功労者になり、米山奨学会より感謝状が届いております。また、栄RCも第24回米山功労RCになりましたので、感謝状が届いております。後ほど会長より授与させていただきます。

- ◆第2回米山功労者感謝状贈呈(会長→木村 忠晴君)



- ◆第24回米山功労クラブ表彰状披露

- ◆卓話

紹介者 羽田野 道明君：現在日本には刀匠として180名の登録がありますが、実際に刀を打っている方は1/3の60名弱位です。美濃伝という刀の産地・関市でも、かつては20名程いましたが現在は10名を切っている中、二十五代は現役として刀を打っていらっしゃいます。来年は若宮神社の西側に刀剣ワールドが出来るとありますが、日本の伝統文化ですので、今日はそういう視点でお話を聞いて頂ければと思います。

- ◆「日本刀に生きる」 刀匠 二十五代藤原兼房様



私の父は関のRCの創立メンバーでした。いつもロータリーのバッヂを付けて、90歳で亡くなるまで周りに助けをもらいながらやっておりましたので、大変感謝しています。羽田野さんとはJC時代から色々お世話になりまして、今日は錦で飲ませてもらえるように頑張りますので宜しくお願いします。

私の家は600年前から刀鍛冶をやっています。私で25代目ですが、親父は5人兄弟の長男で、南方へ戦争に行つて終戦時に捕虜になりました。戦時中も祖父は

- ◆第1267回(9月2日)例会のお知らせ

卓話：「地域で共に進める障害者就労(名古屋市の取り組み)」  
名古屋市健康福祉障害者福祉部 障害支援課 主査 宮崎 慶介様

刀を作っていましたが、終戦後刀を作ってはいけな  
い時代がありました。親父が捕虜から帰ってきて祖父と  
「何とか食っていかないといかん」という事で、刀技術  
を使い包丁やナイフを作りました。当時関で刀を作って  
いた人達が包丁やナイフに転換したので、現在は小さな  
刃物会社の社長さんが沢山います。川に挟まれていて  
自然の要塞になっていた関は、交通の便が良く、戦国時  
代には近くで戦もあり発展して刀の街になっていきまし  
た。

日本刀には鎌倉の相州伝、美濃の美濃伝、京都の山  
城伝、奈良の大和伝、岡山の備前伝と「五ヶ伝」があっ  
て、関は美濃の刀です。関は小さな山が連なっているの  
で、代表的な特徴として小さな山のような波紋を描いた  
焼きが入っています。親父は刀技術を用いて会社を起  
こしたので刀の事は何も教えてくれず、高校へ入った頃  
に伊勢神宮の遷宮の仕事があり、当時の人間国宝であ  
った奈良の月山師匠が家に来ました。刀の事を何も  
わからない私に「うちで教えてやる」という話になり、卒  
業後、奈良の桜井市にある月山へ修行に入りました。本  
当に何も知らないまま入ったので、そこからが大変でし  
た。3人の兄弟子が色々な事を教えてくれます。半年は  
掃除、その後1年は燃料である松炭割り、兄弟子からは  
「師匠が1+1=3と言ったら3だ」と。基本を学ぶため  
には師匠の言うとおりにやるという事を教わりました。段  
々火を使う仕事をするようになります。玉鋼という砂鉄  
で作った塊を順番にへして赤めて積み重ね、約1500度  
の温度にあげていきます。それを沸しと言いますが、火  
花がバーッと折り返してはつけ折り返してはつける。そ  
れが刀の基本です。下手すると材料が減ってしまう。最  
初はなかなか上手いかず怒られてばかりで、70~80℃  
位のサウナのような状態の中での修業は大変辛かった  
です。段々仕事が出来ようになってくると、中でも一番  
厳しく憎らしかった、自分でやらないと覚えないう事  
を覚えてくれた兄弟子に感謝しました。

刀作りには沸しが肝心で、火の中へ鉄を入れて鞆で  
風を送って温度を上げます。温度計を入れる訳にはい

ないので、どの位置から色が変わるか見ながら炎の色  
で判断します。温度が上がると炎が段々赤から黄色に  
変わっていきます。それを覚えるのに3~4年、炎が全部  
教えてくれるようになるには10年がかかります。線香花  
火のような火がパラパラとなると打ち頃で、鉄の表面  
が溶岩のように溶けてそれを叩いてつけていきます。炎  
との闘い、炎との覚えという事で、我々は炎を神のよう  
に思っています。火と仲良くしてやっていくのが刀鍛冶の  
仕事です。沸しは日本特有の技法で、折り返し鍛錬とい  
う世界中に誇れる昔からの技術、伝統を守り、絶やさな  
い。息子や孫、弟子達へ技術を伝える事によって、日本  
の鉄の文化を世界中に誇れるよう頑張っています。刀を  
作る時にはトンテンカンと叩きます。外すとチーンとい  
う音がします。トンテンカン、トンテンカン、たまにチーンと  
音がすると、トンチンカン。室町時代から続く日本の鉄  
の文化から生まれた言葉です。相槌や罅迫り合い、鑄を  
削る等々、調べると残っている言葉が沢山あります。最  
近は刀というと武器だと言われますが、本当は日本の伝  
統文化です。皆さんも刀は切るものではなく、誇れる鉄  
の文化だと世界の人達へ伝えて頂ければと思います。

修行から出てきて最初に親父が言ったのは、「南方  
で死んでしまった戦友の為に、ガダルカナルやサイパン  
等の砂鉄で刀を作り、それぞれの島へ奉納したい」でし  
た。本居宣長が歌った「大和心を人間はば 朝日に匂ふ  
山桜花かな」という言葉を彫った刀を奉納しました。二  
十六代がやれるようになった時には、靖国神社の前に  
鍛錬所を作り、彫りのない無垢な刀を作って奉納しま  
した。今でもたまに展示してもらっています。親父が亡  
くなる少し前に、ロシアのプーチンさんの友人からアメ  
リカへ落ちた隕石で刀を作ってほしいという依頼があ  
りました。アメリカとロシアが中立である日本へ奉納す  
る事によって世界に平和が訪れると。3振作って、その  
うちの1振を熱田神宮へ奉納しました。1振は私の手元  
にありますが、もう1振はそのお客さんがロシアのトップ  
になる方に渡す準備をしているので、渡すときには私も  
行くと思っています。また、私と息子で稀勢の里の土俵  
入りの太刀を作りました。横綱になって太刀を渡し優  
勝してくれました。相撲好きな祖父が双葉山、大鵬等  
の土俵入りの太刀を作り、親父と私が旭富士、私と息子  
で稀勢の里と3代で太刀を作れた事はとても嬉しく思  
います。今は高安の土俵入りの太刀の準備をしています。  
横綱になった時にはうちの刀を持ってくれると思いま  
す。王選手の刀を祖父が作ったので、中日の大豊も刀  
を作ってほしいという事で親父と一緒に作り渡しまし  
た。翌年、王選手に一本足打法を覚えてもらった大豊  
はホームラン王を獲得しました。親父が入院した時、  
見舞いに来て「今日はお見舞い持ってこなかったけど  
明日持ってくるから」と言った翌日、岐阜のメモリアル  
でホームランを打ち、ホームラン人形をサイン入りで  
持ってきてくれました。こんな風に刀を通じて色々な  
人との付き合いがあります。

この後皆さんもぜひ刀を手にとって見てくださ  
い。どうもありがとうございました。

#### ◆ニコボックス

- 二十五代藤原兼房様、卓話よろしくお願  
いします。  
羽田野道明君 吉田 弘幸君
- 明日、8月20日は75回目の誕生日です。とう  
とう後期高齢者の仲間入りです。  
福本 豊彦君
- 今年の夏休みも9日間、徳島でゴルフ4R、  
阿波踊りも一日見学してエンジョイしてき  
ました。家族全員(11名)皆、元気で  
楽しんでできました。殿谷 忠俊君
- 父、西村宗和が去る7月18日に永眠  
いたしました。家族葬のため、皆様へ  
のお知らせは控えさせていただきました  
が、クラブより香典を頂戴いたしまし  
たので、この場を借りてお礼申し上  
げます。ありがとうございました。  
西村 和則君
- 暑いです。  
小川 隆君
- 誕生日の記念品、ありがとうございました。  
水野 守道君
- 元気です。  
小野 清一君 中川 洋二君  
岡本 宏一君 梅村 成君